

消防だより

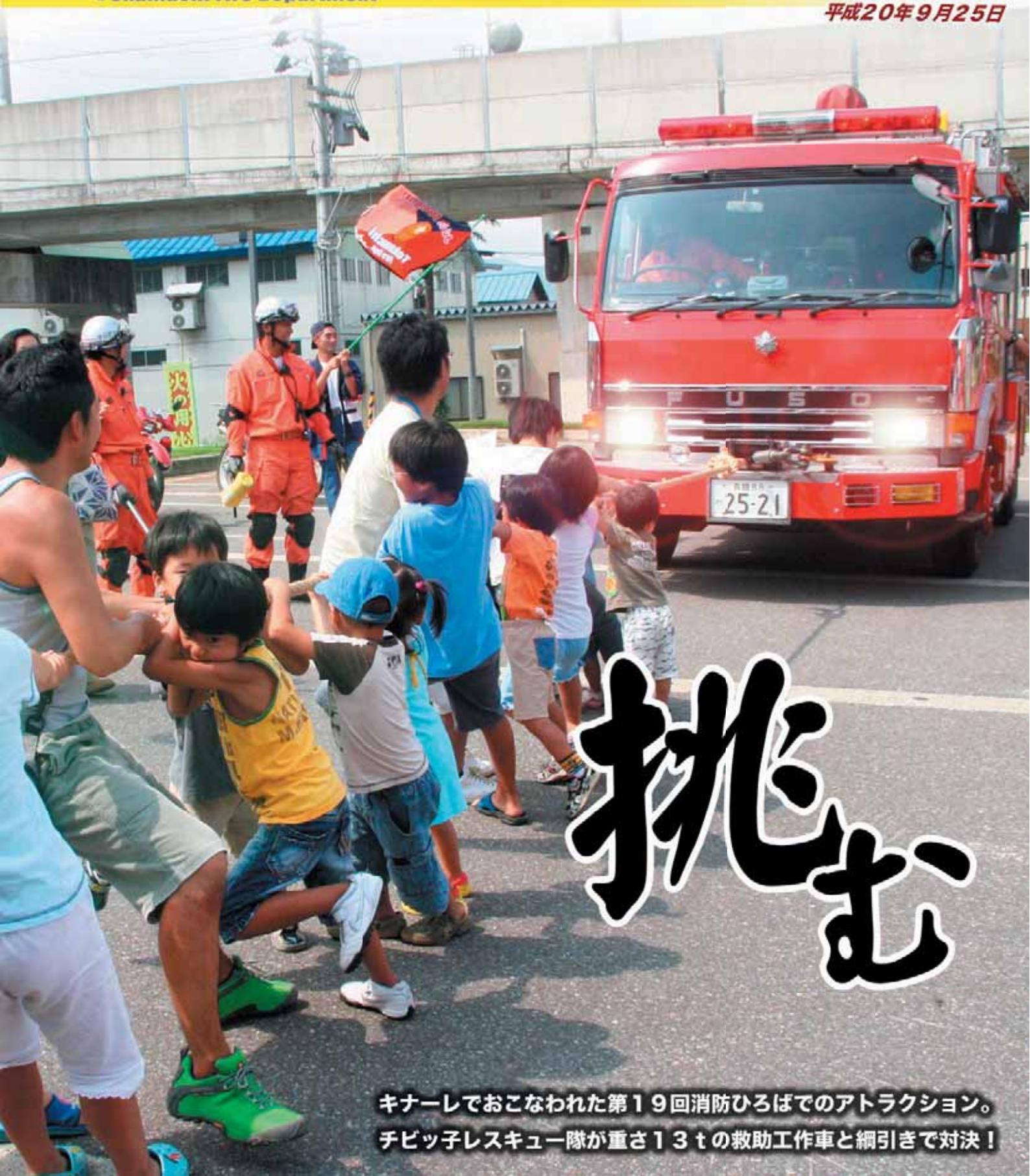
No.61



火の用心

Tokamachi Fire Department

平成20年9月25日



挑む

キナーレでおこなわれた第19回消防ひろばでのアトラクション。
チビ子レスキュー隊が重さ13tの救助工作車と綱引きで対決！

第37回全国消防救助技術大会

ほふく救出の部

全国 2位だ!



左から、小林、中村、山賀、春日、佐藤隊員

去る8月29日(金)福岡県北九州市で行われた第37回全国消防救助技術大会で、十日町地域消防本部から出場した2チームが見事入賞を果たしました。
この救助技術大会は単なるタイムレースではなく、「人命救助」を目的としているため、安全性・確実性が伴わない場合は失格になります。その上で、迅速性が求められる結果、ほふく救出の部では全体で2位、ロープ応用登はんは11位という素晴らしい成績を収めました。

消太の豆知識



全国 807 の消防本部から約千人の精鋭たちが集うこの全国大会は、昭和 47 年に東京都で第 1 回大会が開催された後、多様化する災害に対応すべく、また全国の救助隊員の憧れの舞台として歴史を刻んできました。

現在は、陸上の部、水上の部の計 14 種目(基礎訓練 4、連携訓練 10)と技術訓練を行い、毎年、政令指定都市で行われます。



全国大会で2位の成績を収めた、ほふく救出訓練

栄光の裏で

ほふく救出訓練を始めたのは中村・小林・佐藤隊員とともに平成13年から。配属されてからずっとこの種目を極めることしか頭になかった。毎年県大会には出場はするが、その度に涙を飲んでた。

しかし、今年、彼らの圧倒的な訓練スタイルは他を凌駕していた。県大会を圧倒的なタイムで優勝し、北九州に降り立った彼らの周りには、噂を聞きつけた全国からのカメラが取り巻いた。そう、レベルが違うのである。ひとことで表すと、「美しい」。

今までの、迅速さだけを求めていたスタイルから脱皮し、この大会の訓練の先にあ

=十日町消防の全国救助大会出場記録=

- H7 (ロープ登はん) 太嶋活行
- H8 (はしご登はん) 池内 寛
- H19 (ロープブリッジ渡過) 佐藤利昭
- H20 (ロープ応用登はん) 春日敏明、山賀洋平 (ほふく救出) 中村裕也、小林徳明、佐藤正人

2



る「災害現場」を常に意識した結果、「安全・確実」さが増した。まるで、手品をしているような錯覚すらおぼえる彼らの数十秒間の訓練は、間違いなく「全国」だった。

最高の気持ち

十日町消防署の中でも随一の跳躍力としなやかさを併せ持つ山賀隊員(左図)と春日隊員が出場した種目が「ロープ応用登はん」。5年の歳月をかけ、この種目での全国大会切符を手にした。

2人で力を合わせ、15mもの高さを登る訓練。タイミングがひとつずれることも許されない緊張感の中、下でロープを引く春日隊員と絶妙のコンビネーションをみせる。力と技がマッチしたこの種目で堂々の11位入賞を果たした。

「多種多様化する災害現場でこの訓練技術を生かし、地域住民の『安全・安心』に寄与したい」と彼らは力強く誓った。



トップとは0.9秒しか差はなかった。

家族の絆

平成20年8月3日、新潟県消防大会が十日町市で開催され、様々なドラマを残し、幕を閉じました。

「ヒューマン・クローズアップ」、今回は、そんな消防大会で裏方に徹した、十日町市消防団松之山方面隊第2分団の小野塚和生さん(松之山湯本)、そしてその夫を陰で支えた奥さん(多美子さん)からもお話をお聞きました。



Close Human 人・クローズアップ

消防大会を終えて

かずお

和生さん：雪がまだ残る4月から練習が始まり、あっという間の4ヶ月間でした。本音を言うと最初は皆が「参加することに意義がある」というやや控えめ？な雰囲気でした。しかし、日を追うにつれ「出るからには少しでも上位を目指そう！」という意識の変化に嬉しくなりました。

私は昨年、ポンプ車操法の1番員で支会の大会に出場し、今年は指揮者の補員でしたが、ひとつの目的に向かって4ヶ月間、皆と苦楽を共にし、仲間の信頼関係が深まったことが何より大きな喜びでした。

そして、選手は今回の消防大会を終えて、「できることならば、もう1回チャレンジしたい。」という思いになったことだけでも、大きな進歩であり収穫と考えています。

たみこ

多美子さん：消防大会が終わって、主人はもちろんだと思いますが、わたしもホッとしました。4月からの火、水、金曜の夜は毎日、練習に出かけ、子どもたちに「パパ、今日もないの？」といわれ、つらい時もありました。

主人が練習に出かけ、私が夜勤(月8回位)だと、3人の子どもの夕食、お風呂、寝かしつけ等は、残った家族総動員体制。おじいちゃん、おばあちゃんの協力があってからこそ、無事乗り越えられたと、本当に感謝しています。

去年の操法出場、今年の消防大会を子ども達は見て、その真剣さが伝わり、父親の背中の大ささを感じてくれたと思っています。消防大会が終わり約1ヶ月、家の中に再び安堵感が生まれ、心から「パパ、お疲れ様！」という気持ちでいっぱいです。

仲間への想い



油断禁物！
寒くなる前に....



防火の心構え

～ホームタンクからの灯油流出～

「給油中、じっと我慢の2分間」



毎年、寒くなるとホームタンクからの灯油の流出事故が頻発します。主な原因は、その場を離れたことによるものがほとんどです。

油は水より軽く、側溝などに流れると下流域まで広範囲に拡大します。火災の危険性はもちろん、河川などへの環境汚染となり、深刻な事態に発展します。

燃料代の高騰



昨年来より灯油価格が高騰しており、9月現在で1㍗130円前後と、去年同期よりも30円近く価格が上昇しているのをご存知ですか？

ホームタンクから何百㍗と流出させてしまった時のことを考えると.....

「防油堤」のススメ

設置例



つい、うっかりと流出させてしまった際に有効なのが「防油堤」と呼ばれる溜めマスです。

当地域の火災予防条例では、200㍗以上のホームタンクに設置することとなっています（一般住宅も同様）。今の時期に是非確認してみてください。

～薪ストーブ編～

薪ストーブの魅力



最近、薪ストーブの需要が高まる背景に、その「癒し」効果があると言われています。柔らかい温かみのある炎と暖かさで、「ファンヒーターには戻れない！」と設置したユーザーはこぞ言います。

安全で豊かな生活を送るうえで大事な「薪ストーブの安全性」のチェックをしておきましょう。

えんどう 煙道火災に注意

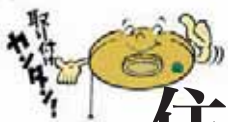


昨年も当地域でこのことが原因と思われる事例がありました。煙突内部に付着したタール（クレオソート）に火がついて燃えてしまう現象です。煙突が1,200もの高温に達することもあり、煙突の先から火が吹き出すこともあります。

対策

煙突掃除を寒くなる前にしっかりと掃除することで、ほぼ100%防げます。

タールを付着させない
乾燥が不十分な薪を焚いた時や、長時間薪を燻らせた時にタールが大量発生します。



— 設置して安心 — 住宅用火災警報器

消防法及び火災予防条例により、以下の期日までに設置が義務付けられます。

新築住宅・・・平成18年6月1日

既存住宅・・・平成23年6月1日

火災の発生を早く知るために、住宅用火災警報器を設置しましょう！



職場体験学習

8月18、19日の2日間、十日町市立南中学校、中条中学校の2年生10名が、職場体験学習で来署しました。

この学習は生徒たちが勤労体験を通じ、現実の社会を見つめ、勤労の意義、生徒自身の将来を考えることを目的に、毎年行われているものです。



生徒たちは1日だけのファイヤーマンで、ダブダブの作業服に身を包み、放水や7mの高さからの降下など、慣れない訓練にも真剣に取り組んでいました。

君たちの額ににじむ汗が、とても頼もしかったよ。



ようこそなまご消防

約半年間の消防学校での初任科研修を終えた5名の消防士が、9月18日にそれぞれの所属に配属となりました。

今年度は8名を採用し、残る3名は現在後期の消防学校で研修中です。

右から
太田隆史(本署) 富井正広(本署)
根津美香(本署) 平野翼(西分署)
福原弘之(西分署)



新採用職員です



津南町消防演習

9月7日(日)、津南小学校グラウンドを会場に津南町消防演習・防災訓練が行われました。

当日は、雨が降ったり止んだりの天候の中、人員姿勢、服装の点検、無線を用いた緊急出動や中継送水訓練、その後、近隣の住民約100名が参加し、避難誘導訓練やバケツリレーによる消火訓練、とび口と毛布を使った担架作成やAEDを使用した応急救護訓練等、本番さながらの訓練となりました。

また、この演習に長野県の栄村消防団からラッパ隊の応援もあり、ファンファーレや、信号ラッパの吹奏、アトラクションでは、メドレーを含めて4曲の演奏があり、消防団や見学に訪れた大勢の住民は、美しいハーモニーに酔いしれました。



演習に花を添えてくれたラッパ隊



消防ひろばにお越しいただき、ありがとうございました。 来年もお待ちしております。



消防ひろばは平成2年に幼少期からの防火・防災思想の高揚を目的に開催され、今年で19回目となりました。今回は、初めての会場となる越後妻有交流館「キナーレ」で様々なコーナーを用意し、子ども達だけにとどまらず、保護者まで楽しめる内容となりました。

住宅火災警報器のコーナーでは、設置に必要な場所や、設置個数をパソコンソフトで算定したり、各種事例を説明するなど、早期の設置をお願いしました（既存住宅は平成23年6月1日に設置義務化）。

救急のコーナーでは、ミニ応急手当講習会も開かれ、訪れた皆さんは熱心に耳を傾けていました。

集客 1はミニ消防車コーナー免許証発行テントには複数の行列ができるほどの盛況ぶりでした。



「十日町消防」で検索してください

十日町地域消防本部の ホームページって知っていますか？

消防職員手作りの情報発信ツールとして、今、注目を集めています！今回、消防ひろばの写真を集めた「子ども写真アルバム」を公開しましたので、当日の様子をWEB上でご覧いただけます。ご家族の写真など、希望する写真がありましたら、「写真の」を記入し電子メールで送信してください（個人情報、その他プライバシーは保護されます）。今後もみなさんが求める話題や情報を幅広く提供・お伝えできるよう努力していきます！

赤色灯

この夏は、8月3日の新潟県消防大会から始まり、29日、全国消防救助技術大会、そして9月14日、消防ひろばとイベントが盛り沢山でした。広報担当としてはうれしい悲鳴で、話題にはこと欠きませんでした。が、とても忙しい夏になりました。

今回の消防ひろばは過去最多となる人出（約二、五〇〇人）となり、職員一同、御礼申し上げます。子どもたちの小さな瞳にこの消防ひろばは、どう写ったのでしょうか。楽しい、すごい、また来たい！とってくれたら幸いです。

この消防ひろばは、普段接客に慣れていない私たちにとって、一番必要な部分だと思っています。子どもからお年寄りまで幅広い年齢層が来場するので、「接遇」には特に気を使います。子どもたちからは、憧れの存在。夢を壊しちゃいけない！と再認識させられます。

消防ひろばが終わると、私たちの職場全体の雰囲気も良くなり、職場に「ヤル気」がみなぎってくる気がするのには私だけでしょうか。

来年、消防ひろばは20回の記念を迎えます。また来年、未来の消防士に出会えることを楽しみにしています。

